

B—51 衣服造型を目的とした女性のプロポーション研究（第一報）

すみれ女子短大 高尾 澄江

1. 目的 衣服造型と体型との関係は、従来より重要な課題として取上げられているので、今回は中部地方を中心とした若い女性を対照とし、衣服造型と一番関係の深い人体個所を実測し、その平均値・配分状態・比率等について発表する。併せて現在、日本でのコスチュームデザインを表現するのに使われている東西の「ファッションモデル」の同個所の平均値をも併記し、これらのモデルによって表現された服装写真や実物に対しての参考資料にする。

2. 方法 18歳～22歳までの前記の女性のうち学生、会社員合わせて820人に対して実測を行なう（計測には同一部分を同一人にて担当）。ファッションモデルはトップクラス東西計8名を計測。顔囲、頸丈、肩傾斜度、胸囲、胴囲、腰囲、同個所横径、同個所矢状径、身長、体重、背丈、等20項目。身長に対する頭丈およびウエスト位置の比率等9項目の配分状態をグラフ化する。計測方法は、Martinの人体測定法に従い計測にはMollisonの人体測定器を使用した。

3. 結果 頸丈、肩の傾斜度、顔囲は身長の高低に関係少なく計測差は小差ながら上半身の衣服造型上重要な分類資料となった。その他各部所の計測、比率によって一応の体測例を作り得た。